

令和8年度（2026年度）第1回東海市3R推進協議会会議録

日時 令和8年（2026年）5月28日（木）

午後2時から

場所 市庁舎501会議室（5階）

1 出席者

(1) 協議会委員（8人）

安部 浩通 委員長

平井 正吉 委員

白羽 圭子 委員

龍田 昭一 委員

毛利 まり子 委員

蟹江 晃男 委員

古賀 祐子 委員

迫分 僚子 委員

(2) 事務局（3人）

林課長、小島統括主任、安井主任

(3) 一般社団法人地域問題研究所研究員（2人）

2 欠席者

2人 酒井 雅代 副委員長、新井 宝造 委員

3 傍聴者

1人

4 議題

(1) 委嘱辞令の交付

(2) 委員長の選出

(3) 報告事項

ア 第4次東海市ごみ処理基本計画後期計画の進行管理について

（資料に基づき事務局から説明）

【安部委員】

令和4年からごみの集計方法を変えたことで減ったとのことですが、令和

5年も減っているが何か施策などを行ったのでしょうか。

【事務局】

要因としましては、令和5年の10月からプラスチックの一括回収というものが始まっておりまして、以前はプラマークのついたものだけが対象だったのですが、クリアファイルや歯ブラシなど小さなプラスチック製品も可燃ごみから資源ごみに入ることになって減ったのではないかと考えております。令和6年もそれが定着して減っているのではないかと思います。

【蟹江委員】

500gの基準については東海市が定めたものなのか国の定めたものなのかお伺いしたいです。

【事務局】

廃棄物の減量その他適正な処理に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な方針というものを環境省が出しており、その数値を目標にしております。

イ 令和8年度（2026年度）の主な事業について

（資料に基づき事務局から説明）

【追分委員】

廃食用油の回収の実績はどのような状況でしょうか。

【事務局】

4月の1週間ほどの期間ですが、6箇所で合計10～15kgほどです。

【龍田委員】

S A Fは全国の自治体でどれぐらい進んでいるのでしょうか。

【事務局】

知多半島はセントレアがあるため活発です。愛知県は昨年からあいち地産地消S A Fサプライチェーン推進協議会というものを始めているので愛知県全体でも力を入れています。

【毛利委員】

公民館などに持っていくのは個人の家庭だけですか。

【事務局】

はい。個人の家庭のみです。事業系は回収のルートができています。

【安部委員】

公民館などは開いている時間だけが回収時間となるのでしょうか。外ではトラブルも懸念されるのでしょうか。

【事務局】

設置している6箇所については外に設置されている場所もありますが、今の所、鍵をかけて入れないようにしていると思います。外に設置しているところと入り口を入れてすぐに設置しているところがあります。4月からスタートして、この2箇月ぐらいではトラブルなどは聞いておりません。心配なところは、鍵をかけてもらっています。

(4) 協議事項

ア 第4次東海市ごみ処理基本計画の取組状況、課題等について

(資料に基づき事務局から説明)

【安部委員】

基本方針1から4までお話いただいたが、議論については個別に進めた方がよいでしょうか。去年協議した中身のまとめかと思いますが、皆さんからはどういったご意見をお伝えするといいいでしょうか。

【事務局】

御説明させていただいた内容は、今までの実績とそこから見えてきた今後の課題で、第5次ごみ処理基本計画に掲載していく方向で考えております。ですので、委員の皆様には今後の方向性、特に下線が引かれている部分についてこの方向性で良いのかなど御意見をいただけますでしょうか。

【追分委員】

6ページに市内保育園で食品ロス啓発紙芝居の読み聞かせが出ています。以前にも御提案したことがあるのですが、内容が食品ロスの問題ではなく、食育の内容になっていることと、この内容が5、6歳児のクラスで回っているのですが、幼児にどこまで伝わっているのか、効果と内容が一致しているのかが疑問です。小学校など対象年齢を変えるか内容を見直すなど効果をみていただきたい。子どもたちから見て非常に難しい。すいませんがよろしくをお願いします。

【事務局】

内容が難しい点は事務局としても課題として考えていきたいと思えます。

【迫分委員】

保育園では食べ残さないということはかなり徹底していて、今は先に子ども達にも聞きながら食べられる量を配膳して、食べ切ることで食べられる自信を持ってもらうような取り組みを進めている状況です。ですので、この紙芝居の内容も含めどうなのか検討いただきたいです。

【平井委員】

この資料はホームページなど、どこかに公開されるのでしょうか。

【事務局】

第5次の計画策定においてこれまで市がどのように取り組んだかというところは掲載していく予定ですし、その取組においての課題も合わせて掲載していく予定となっております。ただ、この資料にある全てを掲載するという話ではなく、第5次の施策に基づいて、取組はピックアップしていくつもりです。

【平井委員】

11ページ目の「万が一の災害に備え」というところで、評価がAとついているのですが、今後の方針が「改善」となっていて、どういうことなのか。また災害廃棄物の仮置場運営マニュアルというのは国が指針を出すのか、それとも東海市で決めるのでしょうか。表現が他人行儀に感じられて、少し補足をいただきたいです。

【事務局】

これはそれぞれの自治体で、その地域に合った形で作っていきます。今はまだ岡崎市さんなど、先進的な取組をやっているところしか実施しておらず、そういった取組を見学・参加させてもらいながら、今作っていく必要があるという認識になっています。評価と方針については、その下の公費解体の指針にも関わってきますが、能登半島の地震の時に色々な問題が出てきて、支障になるものの撤去ができず対策ができなかったという状況が一年以上続いたということもありました。今回地震が起こるまでは、こういったものが必要だと誰も認識していなかったということで、これから改善していかなければいけない案件ということで評価はAではあるが、今後の改善が必要という

ことでそのようにしております。

【平井委員】

表現が「他人」的なものになっているのももう少し優しい市民向けの言葉に変えていただくといいのかなと思います。

【事務局】

ありがとうございます。表現についてはおっしゃる通り伝わりやすい言葉に変更します。

【古賀委員】

7ページの下の部分に、「ジモティーとの協定によるリユース活動を開始した」とあるのですが、名古屋市はジモティースポットを設置しています。またジモティーとは別ですが、静岡県三島市は、清掃センターの中に、回収した粗大ごみをメルカリショップなどに出品して市民の方が安く手に入れるといった機会などがあるのですが、東海市としてもそのような取組をする予定はありますか。

【事務局】

ジモティーとは協定を結ばせていただいています。東海市でもジモティースポットの設置に向けて、ジモティーに物件の紹介、空き店舗の紹介など、そういったものをさせていただいているのですが、なかなか場所が見つからず難航している状況です。空きテナント自体はあるのですが、賃料や駐車場の台数などの条件が合わず、いいところは先に買い手が見つかってしまっております。また2点目の粗大ごみで使えるものは、というお話ですが、昔は東海市でもそういったことは実施していたのですが、今はごみ関係が知多市にある西知多クリーンセンターというところで、これは東海市と知多市が合同で設立した組合で、そちらで動いているので市には入ってこなくなっております。

【迫分委員】

リサイクルセンターの反対側に空いているスペースがあったのではないのでしょうか。

【事務局】

リサイクルセンターも解体工事などが始まるのでなかなか場所が取れずと

いった状況です。引き続き物件などの話があれば動いていきます。

イ 第5次東海市ごみ処理基本計画の骨子案について

(資料に基づき事務局から説明)

【追分委員】

基本施策2の「ごみの発生抑制の推進」のところで、生ごみの減量に向けた取組の推進で講座などはやらないのでしょうか。生ごみの処理は重さも量もあり、これを減らしていくというのは大きな取組なので何かもう一步踏み込まないと難しいのではないかと思いました。ダンボールコンポストを長年やっていたのですが、私自身、江南市や大垣市のNPOさんに教えてもらいに行ったりしたことがあるのですが、配布をしていただいてもやり方が難しく。何かもう少し踏み込んだ取組みを検討いただけるとよいのかと思いました。

【事務局】

キエーロの使用方法はそこまで難しくはないです。生ごみ処理機の補助金は2パターンありまして、電動式が主です。コンポストが去年12件でした。EMをちゃんと使ってくれているのかというのはありますね。

【追分委員】

EMは正しく処理をしようと思っても、ものすごく難しくそれでコンポストの方に移っているのかと思います。キエーロはどのくらいでしょうか。

【事務局】

去年は33件程です。生ごみ処理機は100件ほどです。去年の夏頃から始めていますので、実質1年経っていないです。

【追分委員】

本当に一步踏み込んで例えばラインバルテンとコラボしていくなど何かできないのかなと思いました。あとは、保育園の食品ロスも御検討いただければと思います。

【毛利委員】

施策3に「びん類の資源化の推進」と書かれているのですが、紙などはいいいのですが、瓶は重くてお金にならない、スーパーでも回収するのをやめたりして、燃えないごみにして出してしまうのをよく見かけます。本当は回収す

る場所もあってちゃんと資源回収に出す人は努力されているのですが、もっと多くの方に大切さをわかってもらわないといけないのかなと思いました。

【事務局】

実際、回収場所が少ないのは認識しています。地域の資源集団回収と、月に1回13箇所で行っている拠点回収、あとはリサイクルセンターの常設場だけなのです。集積場所の瓶は、回収はするのですが不燃ごみでしか出せない。瓶は重い、形がそれぞれ違うなどでなかなか回収が難しいのです。それぞれ市独自のやり方がちがうので違う市のいいところを真似すればできるというものでもありません。それでも回収場所はもう少し増やしたいと思っており、できるかは分かりませんが、市内のスーパーや小売店さんと相談して私たちが取りに行くことで場所を提供してもらうなどは検討していきたいと考えています。

【事務局】

トレイやペットボトルはやっているのですが、瓶は割れることや、ペットボトルよりも匂いや大きさなどあるので少しハードルはあります。

【毛利委員】

トレイを再利用してもう一度トレイにしているところがあったのですが、それは市じゃなく業者さんが実施している事業なのでしょうか。

【事務局】

そうだと思います。市ではトレイにはしていないので、今トレイは集めていますけどペレットですね。ペレットからまたそのトレイを作れば市で実施しているボトルtoボトルのような形で循環もできると思います。

【毛利委員】

生ごみをそのまま埋めてしまうのでは肥料にならないのでしょうか。

【追分委員】

生ごみを地中にいれてしまうと分解に時間がかかってしまうのですが、コンポストは微生物が分解して一晩でキャベツなどがなくなってしまうぐらいすごいスピードで分解されて、それを土壌に戻した方が肥料としての効果が高いです。分解できないものは骨や貝殻で、入れちゃいけないものがスイカ。水が多いので。元気がなくなったらヨーグルトやてんぷらかすなどあげると

冬などは分解して発酵して湯気が出てきます。小学生ぐらいのお子さんがいるのであれば、分解して発酵するという自然の働きの勉強にもなるし、育てている感じで面白いのかなと思います。あとは土にそのまま生ごみを埋めると、野生動物が来て掘ってしまう問題や貝殻やたまごの殻などもそのまま残ってしまうので、どちらかというときエーロの方が埋めていく感じかなと思います。

【毛利委員】

市民の方もあまり知らないですね。

【迫分委員】

そうですね、例えば私たちや、まち・ネットさんもいらっしゃるので大人向けの授業の1つとして1回企画していただくというのも良いと思います。あとは、もし埋めるとなると集合住宅はどうするのかという問題があり、東海市は電気の処理機があるのでそれも対応できるということかだと思います。

【事務局】

あとはエーロですね、ベランダにおけるサイズなので。土を作るのではなく生ごみを水や二酸化炭素に分解してずっと使っていけます。去年の秋まつりでエーロを置いていたら興味持たれる方は多かったです。

【安部委員】

エーロというのはどこが開発したものなのでしょうか。

【事務局】

一般の方です。

【迫分委員】

鎌倉の方で元々15年ぐらい前に相模原や鎌倉が市をあげてダンボールコンポストなどの講座をやって企業も含めて盛り上がっていましたね。

【事務局】

少し難しいのですが好気性といって酸素がいるので風通しをよくして分解・発酵を進めるもので、ダンボールコンポストも好気性ですね。

【迫分委員】

逆にEMというのがあるのですがそれは嫌気性で、酸素を入れないようにするのですが、生ごみとEMを入れて密閉してEMの腐ったような汁が出て

きてそれを希釈して畑に撒くと栄養になるよというものです。ただ生ごみは残っているのとハエなどが1匹でも入ると、うじも湧くので私は怖くてやめました。

【事務局】

コンポストをやったのですが、役所でも軒下で実施しています。

【追分委員】

例えば意識のあるコミュニティをモデル推進地区のようにして実施してみるとそこからの広がりもあり良いのではないのでしょうか。

【事務局】

意識があるところでモデルを選んでしまうと、次に広げようとした時に意識がないとできないということになりませんか。

【追分委員】

そこで実施した人たちのところから個人に広がると思います。コミュニティが分解してしまっているエリアもあるが、コミュニティや地域でやるといかという、ご近所だと失敗した時に相談ができ、助け合えるのでそこからさらに広がっていくのではないかと思います。

【事務局／地問研】

この近くで言いますと、平成10年ごろから豊明市が力を入れていて堆肥センターのようなものを作って実施していました。最初はモデル地区のような形からスタートして途中で8,000世帯ぐらいまで増やして市で回収するような仕組みをとっていたのですが平成28年に大規模化しすぎてやめてしまいました。回収するコストがかかるという話が理由だと思うのですが、今のモデル地区的に行う話は、全市展開を見据えてといった、そこまで構えてやるのではなく、モデル地区のままで進めていくということでも良いのではないかと考えています。

【追分委員】

愛媛県で全市的に実施している地域もあるのですが、やはり東海市の人口の規模などを考えると難しそうです。

【事務局／地問研】

おっしゃる通りで、還元する畑など需要がしっかりあって量を考えないと

いけないと思います。キエーロの場合は基本的には還元する場所がなくても消えてしまうのでしょうかね。

【事務局】

そうですね。ある意味では畑とか還元する場所がなくても一定はできるかなということですね。

【事務局／地問研】

昔、山形県長井市に、レインボープランといって、いわゆるちょうどいい人口3万人ぐらいのバランスで、周りにいっぱい畑があるので、全市で生ごみ回収して、堆肥センターでできた堆肥をいわゆる家庭菜園ではなく、農業者に渡すような仕組だから、質の高い堆肥を作ってやっていたのですが、それは非常に人口のバランスが整っていた。つまり、出るごみの量と還元する農地のバランスですね。ところが、今は人口減少でそのバランスが崩れてしまっているのが現状だと思います。だから東海市で本当に全市的にやろうと思うと、限界が見えてくる。ただ、実施するのは非常にいいと思いますし、ずっとモデルでもいいと思います。ある地区が特定でやっていくことで、そういった堆肥化する一つの方法であり、またごみをなくすことで、キエーロのようなものを使っていく啓発的な意味合いの横展開や、家庭へ展開していくなど、様々なアイデアもあるのかなと思います。

【追分委員】

名古屋市で事業をやっていた業者さんは、生ごみで火災を起こしてできなくなってしまったと聞いています。

終了